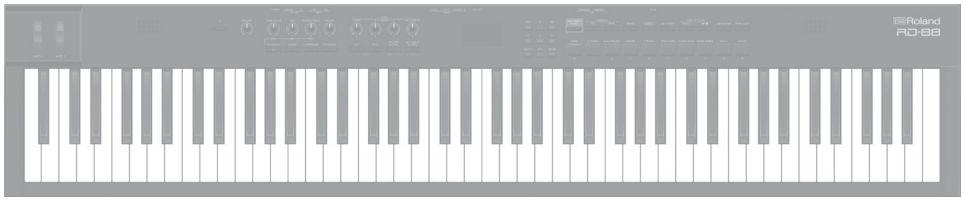
Roland
RD-88

取扱説明書



本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に『安全上のご注意』と『使用上のご注意』(『安全上のご注意』チラシと取扱説明書 (P.28)) をよくお読みください。お読みになったあとは、すぐに見られるところに保管しておいてください。

© 2020 Roland Corporation

取扱説明書 (本書)

最初に読んでください。基本的な使いかたを説明しています。

PDF マニュアル (Web からダウンロード)

- **パラメーター・ガイド**
  本機のすべてのパラメーターについて解説しています。
- **サウンド・リスト**
  本機に収録されている音色のリストです。
- **MIDI インプリメンテーション**
  MIDIメッセージの詳細資料です。

PDF マニュアルの入手方法

1. パソコンなどで下記の URL を入力します。
http://www.roland.co.jp/manuals/

▼

2. 製品名「RD-88」を選んでください。

English
日本語
Deutsch
Français
Italiano
Español
Português
Nederlands

目次

はじめに 3
スタンドに設置する 3
電源を入れる／切る 3

各部の名称とはたらき 4
トップ・パネル 4
ショートカット一覧 5
リア・パネル（機器の接続） 6

RD-88 の概要 8
RD-88 の基本構成 8
シーンについて 8
RD-88 の基本操作 9
主な画面 9
カーソル・ボタンのはたらき 9
設定値の変更 9

演奏する 10
デモ・ソングを聴く（DEMO） 10
ピアノ演奏をする 10
いろいろな音色（シーン）で演奏する 11
鍵盤で複数のトーンを鳴らす 11
トーンを重ねて演奏する（デュアル・モード） 11
鍵盤を 2 つの音域に分けて別々のトーンで演奏する（スプリット・モード） 12
ゾーンのトーンを変える 12
ゾーンごとの音量を調節する 13
鍵盤のタッチ感を調節する 13
鍵盤の音の高さを変える（TRANSPOSE） 14
音に響きをつける（REVERB） 14
音に広がりをつける（CHORUS/DELAY） 15
音をリアルタイムに変化させる（WHEEL1 ／ 2） 15
音にメリハリをつける（COMPRESSOR） 15
音のキャラクターを変化させる（トーン・カラー） 16
音にさまざまな効果をかける（MFX） 16
音の各帯域のレベルを調節する（EQUALIZER） 17
ボタンを効かないようにする（パネル・ロック） 17

多彩な機能を使って演奏する 18
よく使う音色（シーン）をボタンに登録する（FAVORITE） . . 18
フェイバリットを登録する 18
フェイバリットを呼び出す 18
フェイバリット・バンクを切り替える 18
フェイバリットのリストを表示する 18
フェイバリットを削除する 18
リズムを鳴らす 19
リズムのテンポを変える 19
リズムのパターンを変える 19
曲を再生する 20
操作子ごとに機能を設定する 20
［ONE TOUCH PIANO］ボタンを使う 20
RD-88 をマスター・キーボードにする 21
MIDI とは 21
外部音源をコントロールする設定をする 21
パソコンと接続する（USB COMPUTER 端子） 22
専用ドライバーのインストール 22
USB ドライバーを設定する 22

音色の詳細設定をする 23
シーンをエディットする 23
シーンを保存（ライト）する 23
システム・エフェクトをエディットする 23
システム・エフェクトを保存（ライト）する 23

その他の機能 24
便利な機能（UTILITY） 24
データを USB メモリーにバックアップする（BACKUP） 24
バックアップしたデータを復元する（RESTORE） 24
音色を追加する（IMPORT TONE） 24
工場出荷時の設定に戻す（FACTORY RESET） 26
USB メモリーをフォーマットする（FORMAT USB MEMORY） 27
システム設定をする（SYSTEM） 27
システム設定を保存する（システム・ライト） 27
プログラムのバージョンを表示する（INFORMATION） 27

安全上のご注意 28

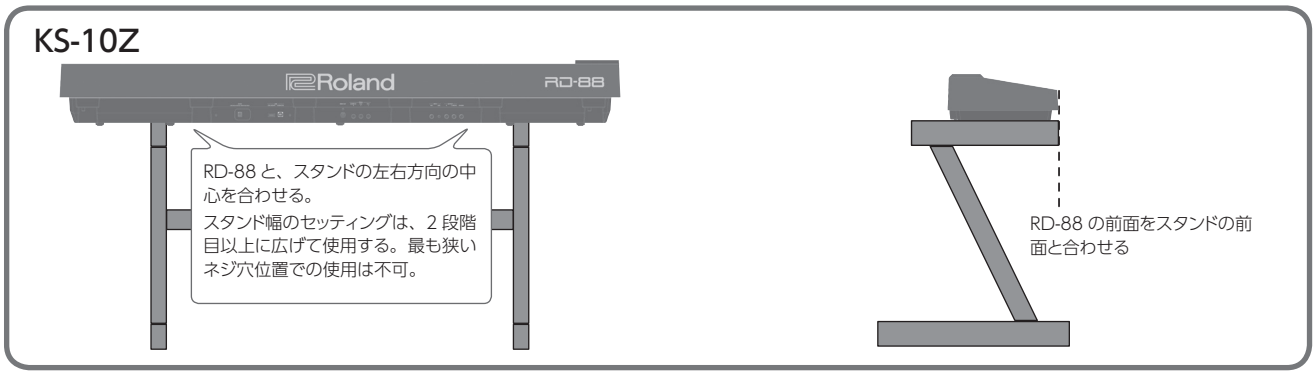
使用上のご注意 28

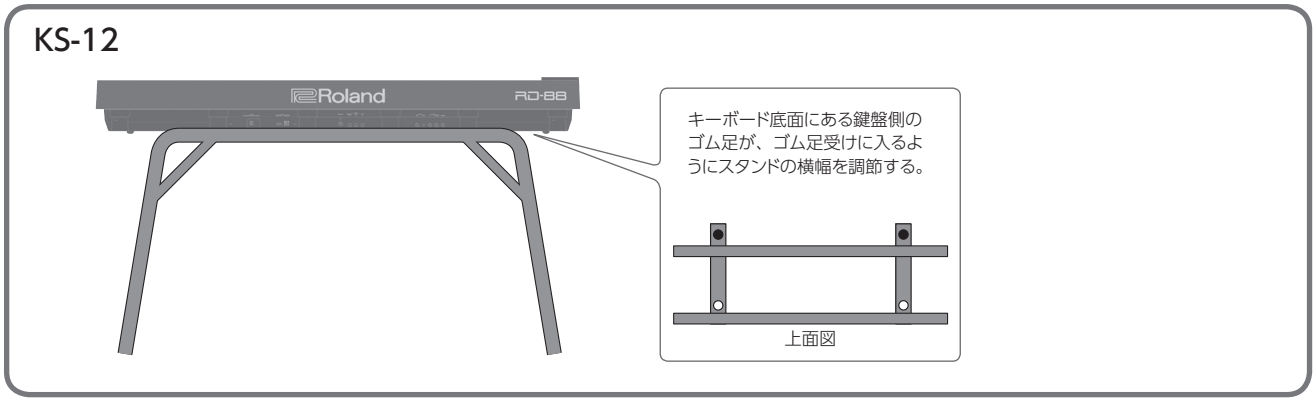
主な仕様 29

はじめに

スタンドに設置する

RD-88 をスタンドに設置するときは、当社製のスタンド KS-10Z か KS-12 をご使用ください。
スタンドに設置するときは、指などを挟まないよう、十分にご注意ください。





スタンドへ設置するときの注意

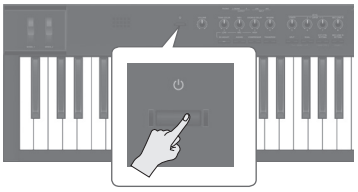
取扱説明書の指示どおりに設置してください。
正しく設置しないと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。
スタンドに設置するときは、指などを挟まないよう、十分にご注意ください。

転倒に注意！

転倒防止のため、RD-88 に無理な力を加えたり、絶対に上に乗ったりしないでください。

電源を入れる／切る

[⏻]（電源）ボタンを押すと、電源が入ります。
また、[⏻]（電源）ボタンを長押しすると、電源が切れます。



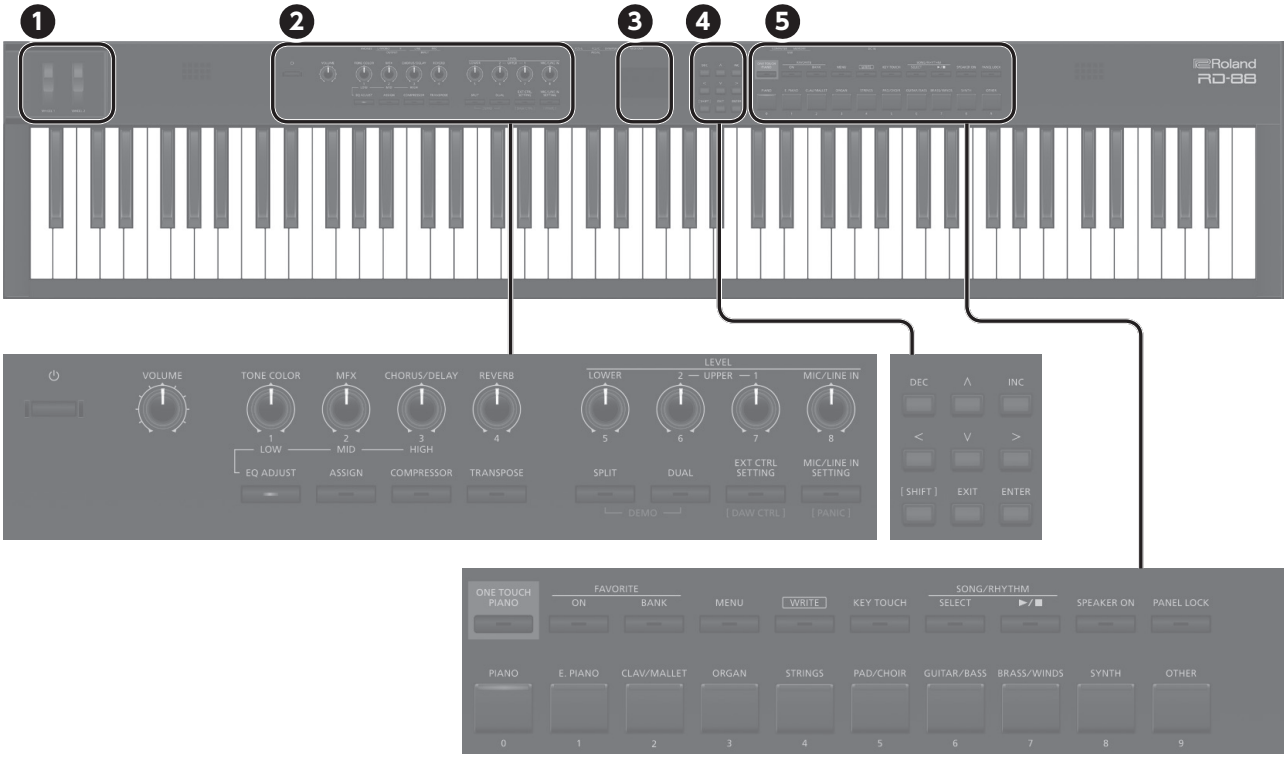
※ 本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます（Auto Off 機能）。自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください。解除のしかたについては、『パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

※ 電源が切れると保存していないデータは失われます。残しておきたいデータはあらかじめ保存しておいてください（P.23）。

※ 電源を入れる／切るときは、音量を絞ってください。音量を絞っても電源を入れる／切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。

各部の名称とはたらき

トップ・パネル



❶

WHEEL 1 ／ 2

ホイールを回すと音が変化します。どのような変化をかけるかを設定することができます（P.15）。

❷

[⏻] スイッチ

電源をオン／オフします。

[VOLUME] つまみ

RD-88 全体の音量を調節します。

[TONE COLOR] つまみ

音質や音像を変化させます（P.16）。

[EQ ADJUST] ボタンが点灯しているときは、EQ [LOW] つまみになります（P.17）。

[MFX] つまみ

エフェクトのかかり具合を調節します（P.16）。

[EQ ADJUST] ボタンが点灯しているときは、EQ [MID] つまみになります（P.17）。

[CHORUS/DELAY] つまみ

コーラス／ディレイ効果のかかり具合を調節します（P.15）。

[EQ ADJUST] ボタンが点灯しているときは、EQ [HIGH] つまみになります（P.17）。

[REVERB] つまみ

リバーブのかかり具合を調節します（P.14）。

[EQ ADJUST] ボタン

EQ を調節するときにオンにします。ボタンがオン（点灯）のときは、上記 3 つのつまみで EQ を調節できます（P.17）。

[ASSIGN] ボタン

つまみに好きなパラメーターを割り当てて調節することができます。ボタンがオン（点灯）のときは、つまみに割り当てた値を調節できます（P.20）。

[COMPRESSOR] ボタン

コンプレッサーをオン／オフします（P.15）。

[TRANSPOSE] ボタン

移調して演奏できます（P.14）。

LEVEL [LOWER]、[UPPER2]、[UPPER1] つまみ

各ゾーンの音量を調節します（P.13）。

LEVEL [MIC/LINE IN] つまみ

MIC ／ LINE インプットのレベルを調節します。

[SPLIT] ボタン

スプリット・モードをオン／オフします（P.11）。

鍵域を 2 つに分けて右側と左側で別の音色を演奏することができます。

また、このボタンと [DUAL] ボタンを同時に押すと、デモ曲を聴くことができます（P.10）。

[DUAL] ボタン

デュアル・モードをオン／オフします（P.11）。全鍵でUPPER 1 と UPPER 2 のトーンを重ねて演奏することができます。

また、このボタンと［SPLIT］ボタンを同時に押すと、デモ曲を聴くことができます（P.10）。

[EXTERNAL CTRL SETTING] ボタン

外部 MIDI 音源をコントロールするための設定画面を開きます（P.21）。

[MIC/LINE IN SETTING] ボタン

MIC/LINE 入力の設定画面を開きます。MIC/LINE インプットに EQ やリバーブをかけることができます（P.7）。

❸

ディスプレイ

シーン名や、さまざまな設定を表示します。

❹

[<] [>] [∧] [∨] ボタン

画面の切り替えや、カーソルを移動するときに押します。

[INC] [DEC] ボタン

値を変更します。片方のボタンを押しながらもう一方のボタンを押すと、値が速く変わります。

[SHIFT] ボタン

このボタンを押しながら、ボタンやつまみ、コントローラーを操作すると、関係する設定画面を呼び出すことができます（「ショートカット一覧」参照）。また、このボタンを押しながらパラメーターの値を変更すると、値の変化が大きくなります。

[EXIT] ボタン

元の画面に戻ったり、実行中の機能を中断したりします。

[ENTER] ボタン

値の確定や操作を実行するときに使います。

❺

[ONE TOUCH PIANO] ボタン

ピアノ音色（シーン）を呼び出します。

ピアノ音色の代わりに、お気に入りの音色を呼び出す設定もできます（P.11）。

注意

このボタンを押してピアノ音色を呼び出すと、編集中の設定は失われますのでご注意ください。

FAVORITE [ON] ボタン

お気に入り登録した音色を呼び出す機能（FAVORITE 機能）をオン／オフします（P.18）。

FAVORITE [BANK] ボタン

お気に入りの音色を登録できる FAVORITE メモリーのバンクを選びます（P.18）。

[MENU] ボタン

MENU 画面が表示されます。

[WRITE] ボタン

保存（WRITE）画面が表示されます。

[KEY TOUCH] ボタン

鍵盤タッチの設定画面が表示されます（P.13）。

SONG/RHYTHM [SELECT] ボタン

ソングやリズムを選ぶ画面が表示されます（P.19、P.20）。

SONG/RHYTHM [▶/■] ボタン

ソングやリズムを再生、停止します（P.19、P.20）。

[SPEAKER ON] ボタン

内蔵スピーカーをオン／オフします。

ヘッドホン端子にヘッドホンを挿入したとき、内蔵スピーカーがオフになりますが、このボタンを押すとヘッドホンを挿した状態でもスピーカーをオンにできます。また、ヘッドホンを挿さなくてもスピーカーをオフにできます。

[PANEL LOCK] ボタン

ボタンの長押しでパネル・ロック（パネル操作を無効にする機能）のオン／オフを切り替えます（P.17）。

[PIANO] ～ [OTHER] ボタン／ [0] ～ [9] ボタン

音色（シーン）のカテゴリーを選びます（P.11）。

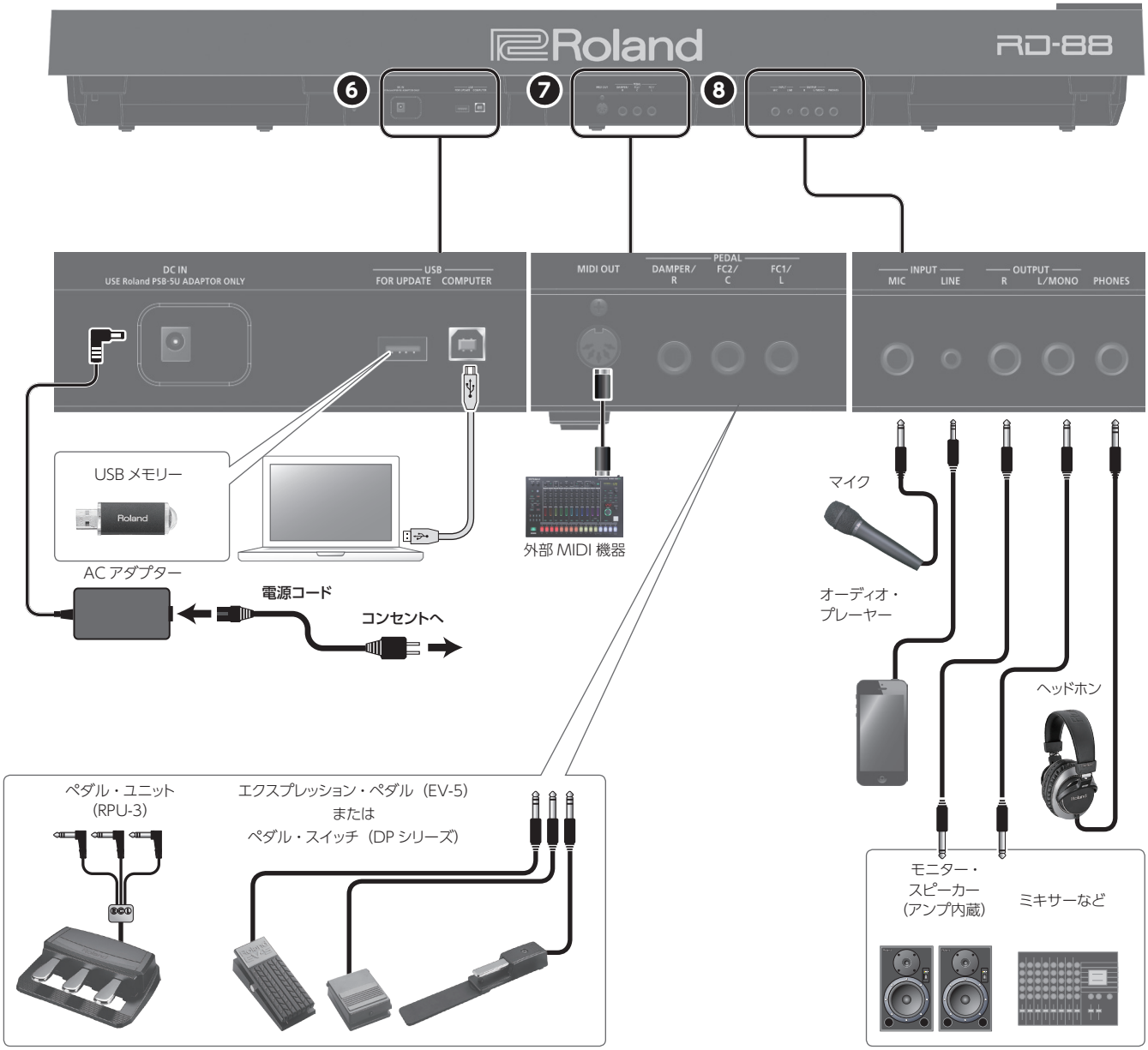
［FAVORITE］ボタンまたは［BANK］ボタンが点灯しているときは、［0］～［9］ボタンとして機能します（P.18）。

ショートカット一覧

※「[A] ＋ [B]」は、「[A] ボタンを押しながら、[B] ボタンを押す」という操作を表します。

ショートカット	説明
[SHIFT] ＋ [DEC] [SHIFT] ＋ [INC]	値を 10 ずつ変更します。また、シーン画面が表示されているときは、シーンのカテゴリーが切り替わります。
[SHIFT] +Favorite [BANK]、または [SHIFT] +Favorite [ON]	Favorite リストを表示します。
[SHIFT] ＋ つまみ 1 ～ 4 操作	各つまみのパラメーター設定画面にジャンプします。
[SHIFT] ＋ つまみ 1 ～ 8 操作	* ［ASSIGN］ボタンがオンのとき つまみのアサイン設定画面にジャンプします。
[SHIFT] +WHEEL 1/2 操作	ホイールのアサイン設定画面にジャンプします。
[SHIFT] ＋ ペダル操作	ペダルのアサイン設定画面にジャンプします。

リア・パネル（機器の接続）



※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。

6

DC IN 端子

付属の AC アダプターをつなぎます。

USB MEMORY 端子

USB メモリーを挿入します。

USB COMPUTER 端子

パソコンと接続して、演奏情報やオーディオ信号をやりとりします。

メモ

- RD-88 は USB MIDI、USB Audio に対応しています。USB Audio を使用する場合は、専用の USB ドライバーをパソコンにインストールする必要があります。ドライバーはローランドのホームページからダウンロードすることができます。
- USB ドライバーの設定や、USB MIDI/Audio の設定の詳細については、『パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。
- 専用プラグインを使用して、より高度にパソコン上のソフトウェアをコントロールすることができます。詳しくは、ローランドのホームページをご覧ください。

❼

MIDI OUT 端子

外部 MIDI 機器と接続して、MIDI メッセージを送信します。

PEDAL 端子（DAMPER/R、FC2/C、FC1/L）

DAMPER 端子に付属のペダルを接続すると、ダンパー・ペダルとして使用することができます。

また、FC1、FC2 端子に接続したペダルにいろいろな機能を割り当てることができます（P.20）。

※ エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のものをお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。

❽

INPUT 端子（MIC、LINE）

マイクや外部オーディオ機器を接続して、マイクを使って弾き語り演奏したり、外部オーディオ機器の楽曲に合わせて演奏したりできます。

端子	説明
MIC	マイク（別売）を接続します。
LINE	オーディオ入力端子です。オーディオ・プレーヤーなどと接続します。

メモ

- LEVEL［MIC/LINE IN］つまみで、音量を調節します。
- RD-88 はダイナミック・マイクに対応しています。コンデンサー・マイクには対応していません。
- 入力した音声に EQ やリバーブを設定することができます。［MIC/LINE IN SETTING］ボタンを押すと、設定画面が開きます。［MENU］ → ［INPUT SETTING］からも、同じ画面を表示できます。設定できるパラメーターの詳細については、『パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

OUTPUT 端子（L/MONO、R）

オーディオ信号の出力端子です。アンプなどと接続します。

モノで出力するときは、L/MONO 端子に接続してください。

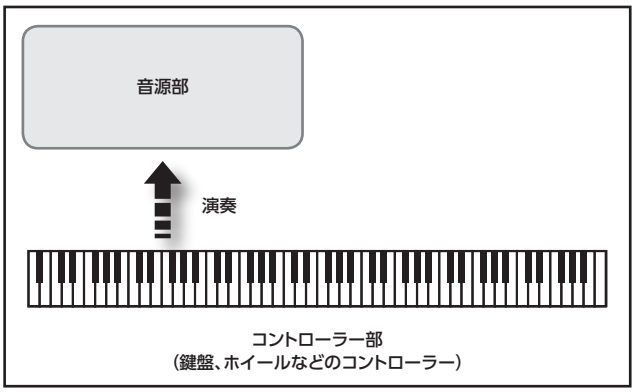
PHONES 端子

ヘッドホンを接続します。

RD-88 の概要

RD-88 の基本構成

RD-88 は大きく分けて、コントローラー部と音源部で構成されています。



コントローラー部

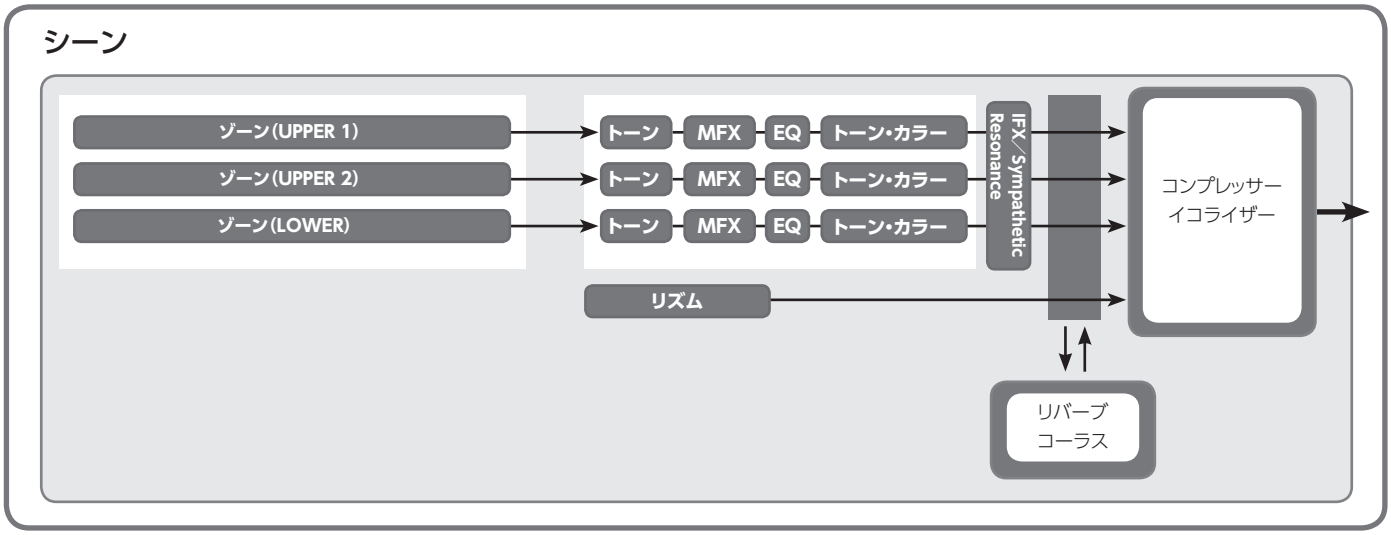
鍵盤、モジュレーション・ホイール、パネル上のつまみ、リア・パネルに接続したペダルなどが含まれます。キーを押す／離す、ダンパー・ペダルを踏むなどの演奏情報を MIDI メッセージに変換して、音源部や外部 MIDI 機器に送信します。

音源部

音を発生させる部分です。コントローラー部や外部 MIDI 機器からの MIDI メッセージを楽音信号に変換して、OUTPUT 端子や PHONES 端子からアナログ信号として出力します。

シーンについて

RD-88 は、設定した音色を保存できます。
保存された音色を「シーン」と呼び、ボタンで呼び出して鳴らすことができます。



ゾーン

RD-88 は、内部パートを本体のボタンと鍵盤で自由にコントロールするための 3 つのパート（UPPER 1、UPPER 2、LOWER）を持っています。内部パートをコントロールするこの 3 つのパートを「ゾーン」といいます。
また、RD-88 では、外部 MIDI 音源をゾーンと同じ感覚で自由にコントロールすることができます。外部音源も 3 つのパート（UPPER 1、UPPER 2、LOWER）でコントロールでき、この 3 つのパートを「EXTERNAL ゾーン」といいます。外部 MIDI 音源をこの 3 つの EXTERNAL ゾーンに割り当ててコントロールします。

トーン

演奏に使う 1 つの音色を「トーン」と呼びます。トーンは、ゾーンに割り当てて鳴らします。

リズム

ジャズやロックなどさまざまな音楽ジャンルのドラム・パターンを内蔵しています。これらのパターンを演奏させることができます。

エフェクト

ZONE 1 ～ 3 には、各 ZONE で独立して設定できる MFX と EQ、トーン・カラーがあります。
また、ZONE で共通して使えるリバーブ、コーラス、IFX、Sympathetic Resonance もあります。

RD-88 の基本操作

主な画面

シーン画面（基本画面）

現在選んでいるシーンが表示されます（P.11）。
シーンを変えることができます。

ソング／リズム画面

SONG/RHYTHM [SELECT] ボタンを押すと、この画面になります。
リズム・パターン、テンポ、音量を変えることができます（P.20）。

USB MEMORY 端子に USB メモリー（別売）を接続して、USB メモリー内のオーディオ・ファイルを再生することもできます。

［EXIT］ボタンを押すと、シーン画面に戻ります。

カーソル・ボタンのはたらき

カーソル・ボタンは、画面の切り替えや、設定を変更したい項目の移動（カーソルの移動）に使います。

画面の切り替え

画面の右上に矢印記号（「◀」や「▶」）が表示されているときは、矢印方向に画面があること示しています。
カーソル［<］［>］ボタンで画面を切り替えます。

設定項目（カーソル）の移動

1 つの画面に複数の項目が表示されている場合、設定を変更したい項目名や値が枠で囲まれます。この枠を「カーソル」といい、カーソル・ボタンで移動します。

設定値の変更

設定値を変更するときは、［DEC］［INC］ボタンを使います。

目的	操作
連続して値を変えたいとき	［DEC］ボタンまたは［INC］ボタンを押し続けます。
値を速く大きくしたいとき	［INC］ボタンを押しながら［DEC］ボタンを押します。 逆に、［DEC］ボタンを押しながら［INC］ボタンを押すと、値が速く小さくなります。

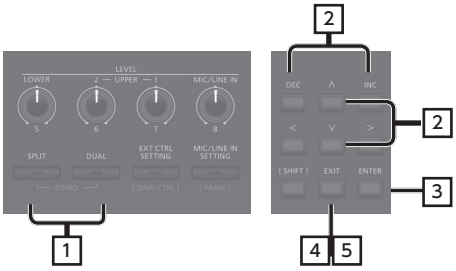
演奏する

デモ・ソングを聴く（DEMO）

デモ・ソングを聴いてみましょう。

注意

- デモ・ソングの演奏中は、鍵盤を弾いても音は鳴りません。
- デモ・ソングの演奏データは MIDI OUT 端子からは出力されません。



メモ

デモ・モードに入ると、保存前の各種設定は失われます。
残しておきたい設定は、シーン、またはシステムに記憶してください（P.23）。

1. ［SPLIT］ボタンを押しながら［DUAL］ボタンを押します。

デモ・モードになり、デモ画面が表示されます。

2. カーソル［∧］［∨］ボタンまたは［DEC］［INC］ボタンを押してデモ・ソングを選びます。

3. ［ENTER］ボタンを押して、デモ・ソングの再生を始めます。

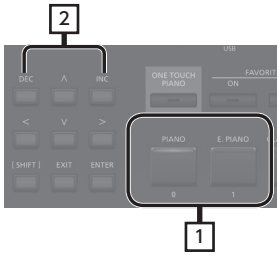
4. デモ・ソングを途中で止めるときは、［EXIT］ボタンを押します。

5. デモ・モードを終了するときは、曲が止まっているときに、［EXIT］ボタンを押します。

元の画面に戻ります。

ピアノ演奏をする

ピアノ演奏をしてみましょう。
RD-88 では、ボタン 1 つでいつでもピアノ演奏に最適な設定を呼び出すことができます。お好みのトーン（音色）や設定を選び、ボタンに記憶させることもできます。



1. ［PIANO］ボタンまたは［E. PIANO］ボタンを押します。

［PIANO］ボタンを押したときは、鍵盤全体でピアノ音色を演奏する設定になります。
［E. PIANO］ボタンを押したときは、鍵盤全体で E. ピアノ（エレクトリック・ピアノ）音色を演奏する設定になります。

2. ［DEC］［INC］ボタンを押して、シーンを選びます。

メモ

シーン画面で、カーソルがシーン番号にあるときに［ENTER］ボタンを押すと、シーンのリストが表示されます。カーソル・ボタンでシーンを選ぶことができます。シーンを選んだあと、［EXIT］か［ENTER］ボタンを押すとシーン画面に戻ります。

より細かな設定をする

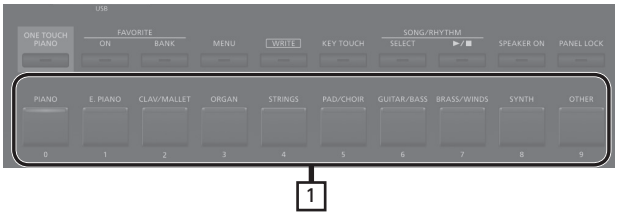
RD-88 では、お好みのピアノ演奏に合うように、より細かな設定をすることができます。その設定はシーンごとに記憶することができます。
詳しくは、「音色の詳細設定をする」（P.23）をご覧ください。

注意

設定を変更すると、「*」が表示されます。
「*」が表示された状態で電源を切ったり ONE TOUCH 音色や別のシーンを選んだりすると、設定変更は無効になります。設定を残しておきたいときは、シーンを保存してください（P.23）。

いろいろな音色（シーン）で演奏する

RD-88 には、さまざまな音が内蔵されています。
この 1 つ 1 つの音のことを「シーン」といいます。
シーンは音の種類（カテゴリー）ごとにシーン・カテゴリー・ボタンに割り当てられています。
カテゴリーごとにいくつかのシーンがあります。
いろいろなシーンを選んで演奏してみましょう。



1. シーン・カテゴリー・ボタンのいずれかを押して、シーンの種類（カテゴリー）を選びます。

選んだシーン・カテゴリー・ボタンのインジケーターが点灯します。

2. [INC] [DEC] ボタンで、シーンを選びます。

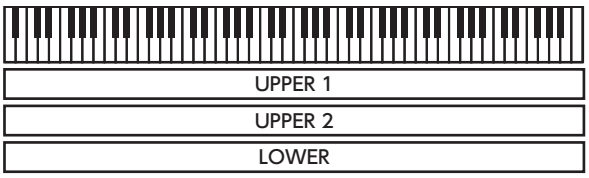
鍵盤を弾くと、選んだシーンが鳴ります。

注意

設定を変更すると、「*」が表示されます。
「*」が表示された状態で電源を切ったり他のシーンを選んだりすると、設定変更は無効になります。設定を残しておきたいときは、シーンを保存（P.23）してください。

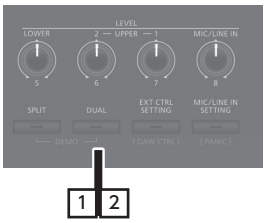
鍵盤で複数のトーンを鳴らす

RD-88 には、3 つのゾーン(UPPER 1、UPPER 2、LOWER)があり、各ゾーンにトーンが 1 つずつ割り当てられます。
ゾーンをオン／オフすることで、複数のトーンを鳴らすことができます。音を重ねて同時に複数のトーンを鳴らしたり、右手側と左手側で別々のトーンを鳴らしたりすることもできます。



トーンを重ねて演奏する（デュアル・モード）

全鍵で UPPER 1 と UPPER 2 のトーンを重ねて演奏することができます。



1. [DUAL] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

鍵盤を弾いてみましょう。
UPPER 1 と UPPER 2 のトーンが重なって鳴ります。
画面に UPPER2 のトーンが表示されます。

2. デュアルを解除するときは、もう一度 [DUAL] ボタンを押して、インジケーターを消灯させます。

UPPER 1 のトーンのみが鳴ります。

メモ

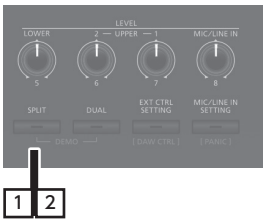
LOWERのトーンも重ねて3ゾーンにすることができます。詳しくは、「音色の詳細設定をする」（P.23）をご覧ください。

鍵盤を 2 つの音域に分けて別々のトーンで演奏する（スプリット・モード）

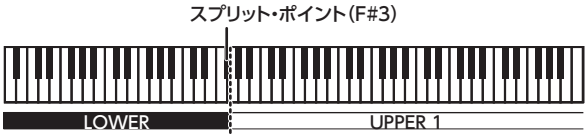
ある鍵を境に鍵盤が右側と左側に分かれることを「スプリット」といい、鍵盤が分かれる位置を「スプリット・ポイント」といいます。
鍵盤右側で鳴るパートを UPPER、鍵盤左側で鳴るパートを LOWER といい、スプリット・ポイントの鍵は LOWER に含まれます。
電源投入時、スプリット・ポイントは、「F#3」に設定されています。

メモ

スプリット・ポイントを変えることができます。「音域の分かれる位置を変える（スプリット・ポイント）」（P.12）をご覧ください。



1. [SPLIT] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。



鍵盤を弾いてみましょう。
鍵盤右側で UPPER 1 のトーン、鍵盤左側で LOWER のトーンが鳴ります。画面に LOWER のトーンが表示されます。

2. スプリットを解除するときは、[SPLIT] ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

音域の分かれる位置を変える（スプリット・ポイント）

スプリット・モードの鍵盤の分かれる位置（スプリット・ポイント）を変えることができます。

1. [SPLIT] ボタンを数秒間長押しします。

現在の設定値が表示されます。

2. [SPLIT] ボタンを押したまま、スプリット・ポイントにしたい鍵を押します。

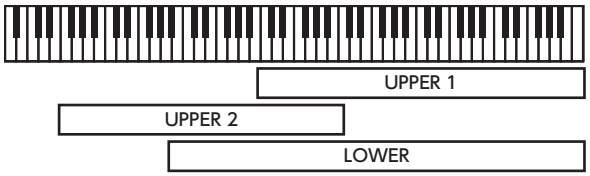
[SPLIT] ボタンから指を離すと画面が元に戻ります。
スプリット・ポイントの鍵は、LOWER 側に含まれます。

ゾーン	設定範囲
UPPER 1、UPPER 2	スプリット・ポイント+1～C8
LOWER	A0～スプリット・ポイント

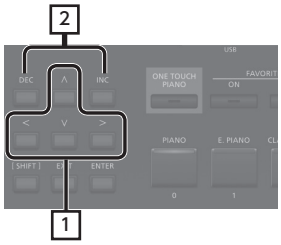
スプリット・ポイントを設定すると、各ゾーンのキー・レンジはスプリット・ポイントを境に左右に分かれ、表の値に設定されます。

メモ

- [SPLIT] ボタンを押しながら [DEC] ボタンや [INC] ボタンを押すと、スプリット・ポイントを半音ずつ変えることができます。
- 下図のように、ゾーンごとに鍵域を自由に設定することができます。詳しくは、『パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。



ゾーンのトーンを変える



1. シーン画面で、カーソル・ボタンを押してトーンを変えたいゾーンを選びます。

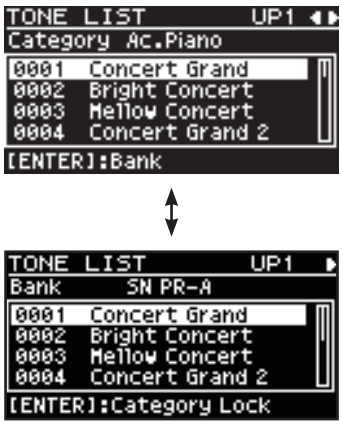
2. [DEC] [INC] ボタンで、トーンを選びます。

[SHIFT] ＋ [<] [>] ボタンでトーンのバンクを選ぶことができます。

メモ

カーソルがトーンにあるときに [ENTER] ボタンを押すと、トーンのリストが表示されます。
トーンを選んだあと、[EXIT] ボタンを押すとシーン画面に戻ります。

ボタン	操作
[ENTER] ボタン	バンク画面／カテゴリー画面切り替え
カーソル [∧] [∨] ボタン	トーン選択
カーソル [<] [>] ボタン	バンク（カテゴリー）選択



ゾーンごとの音量を調節する

LEVEL［LOWER］、［UPPER2］、［UPPER1］つまみで、各ゾーンの音量を設定することができます。

メモ

全体の音量を調節するときは、［VOLUME］つまみを使います（P.4）。

鍵盤のタッチ感を調節する

鍵盤を弾くタッチ感などを調節します。

1. ［KEY TOUCH］ボタンを押します。

鍵盤タッチの設定画面が表示されます。

2. カーソル［∧］［∨］で変更したいパラメーターを選び、［DEC］［INC］ボタンで値を変更します。

3. ［EXIT］を押して、元の画面に戻ります。

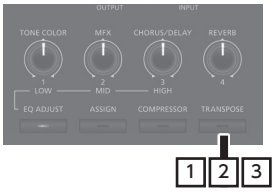
メモ

KEY TOUCH の設定はシーンごとに保存できます。設定を保存する場合は、「シーンを保存（ライト）する」（P.23）をご覧ください。

パラメーター	設定範囲	解説
Source	SCENE	シーンで設定した KEY TOUCH の設定が有効になります。
	SYS	システムで設定した KEY TOUCH の設定が有効になります。 **メモ** 複数のシーンで、共通の同じ鍵盤タッチにしたい場合は、Source を「SYS」にします。共通の鍵盤タッチの設定は、［MENU］→［SYSTEM］→［KEY TOUCH］からたどれます。設定を保存する場合は、「システム設定を保存する（システム・ライト）」（P.27）をします。 Source を「SYS」に設定したシーンが選ばれた状態で、［KEY TOUCH］ボタンを押すと、SYSTEM の Key Touch 設定画面が表示されます。
Velo Crv (Velocity Curve)	SPR LIGHT	LIGHT よりもさらに軽い設定です。
	LIGHT	鍵盤のタッチ感を軽めの設定にします。MEDIUM より弱いタッチでフォルティッシモ（ff）が出せるので、鍵盤が軽くなったように感じられます。力の弱いかたでも、演奏しやすい設定です。
	MEDIUM	鍵盤のタッチ感を標準設定にします。最も自然なタッチで弾けます。アコースティック・ピアノに一番近いタッチです。
	HEAVY	鍵盤のタッチ感を重めの設定にします。MEDIUM より強いタッチで弾かないとフォルティッシモ（ff）が出せなくなるので、鍵盤が重くなったように感じられます。ダイナミックに弾くとき、さらに感情がこめられます。
	SPR HEAVY	HEAVY よりさらに重い設定です。
Velo Offset (Velocity Offset)	-10 ～ +9	鍵盤のタッチ感を Velocity Curve の設定よりさらに細かく調節します。Velocity Curve の設定値間をさらに細かく設定することができます。 値が大きいほどタッチ感が重くなります。 この設定値が上限または下限を超えると、その値に合わせて Velocity Curve の 5 段階の値も自動的に切り替わります。
Velocity	REAL	鍵盤を弾く強さによって音量や音の鳴りかたが変化します。
	1 ～ 127	鍵盤を弾く強さにかかわらず、音量や音の鳴りかたが設定した値で一定になります。
Velo Dly Sens (Velocity Delay Sensitivity)	-63 ～ +63	鍵盤を押した瞬間から発音するまでのタイミングを設定します。 値がマイナスのときは、強く弾いたときの発音のタイミングが遅くなります。値がプラスのときは、弱く弾いたときの発音のタイミングが遅くなります。
Velo Keyfollow (Velocity Keyfollow Sensitivity)	-63 ～ +63	鍵域による鍵盤のタッチ感を設定します。 値が大きいほど、鍵域の高い鍵はより重く、鍵域の低い鍵はより軽い設定になります。
KeyOff Pos (Key Off Position)	STANDARD	通常のピアノの深さでノート・オフします。
	DEEP	深い位置でノート・オフします。エレクトリック・ピアノなどの音色に適しています。

鍵盤の音の高さを変える（TRANSPOSE）

自分が弾く鍵盤の位置を変えずに移調して演奏することができます。このような機能を「トランスポーズ」といいます。
歌う人の声の高さに合わせて演奏したいときや、トランペットなどの移調楽器の譜面どおりに演奏したいときなどに使うと便利です。
トランスポーズの設定は、C4 を基準に半音単位で -5 ～ 0 ～ +6 の範囲で設定できます。電源投入時は「0」に設定されています。



1. ［TRANSPOSE］ボタンを数秒間長押しします。

Transpose 画面が表示され、現在の設定値が表示されます。

2. ［TRANSPOSE］ボタンを押したまま、鍵を押します。

C4（ド）の鍵を押したとき、トランスポーズ量は「0」になります。
たとえば、「ド」の鍵を弾いたときに「ミ」の音が出るようにするには、［TRANSPOSE］ボタンを押しながら、E4（ミ）の鍵を押します。このときの、トランスポーズ量は「+4」になります。
［TRANSPOSE］ボタンから指を離すと、画面は元に戻ります。
トランスポーズ量が設定されると、トランスポーズがオンになり、［TRANSPOSE］ボタンが点灯します。

メモ

- ［TRANSPOSE］ボタンを押しながら［DEC］［INC］ボタンを使って、トランスポーズ量を変えることができます。
- ［TRANSPOSE］ボタンを押しながら、F#4（ファ #）以上の鍵を押すと、トランスポーズ量は［+6］になります。
- ［TRANSPOSE］ボタンを押しながら、G3（ソ）以下の鍵を押すと、トランスポーズ量は［-5］になります。

3. トランスポーズをオフにするときは、［TRANSPOSE］ボタンを押してインジケーターを消灯させます。

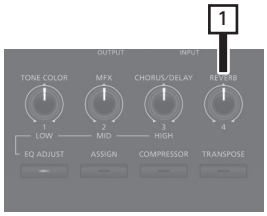
次に［TRANSPOSE］ボタンを押すと、ここで設定した値でトランスポーズされます。

注意

- トランスポーズ量が 0 のときは、［TRANSPOSE］ボタンを押してもオンになりません。
- 電源を切ると、トランスポーズは 0 に戻ります。

音に響きをつける（REVERB）

鍵盤で弾く音に「リバーブ効果」（残響）をかけることができます。
リバーブ効果をかけると、コンサート・ホールなどで演奏しているような心地よい響きが得られます。



1. ［REVERB］つまみを回します。

リバーブ効果のかかり具合が変わります。
リバーブのかかり具合は、0 ～ 127 の範囲で設定できます。

メモ

MENU 画面、「SYSTEM EFFECTS」の「Sys Reverb」ページで、リバーブの種類を選ぶことができます。

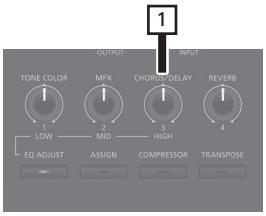
注意

［MENU］→［SCENE EDIT］→［ZONE EDIT］の「INTERNAL」のページで、「Rev Send（リバーブ・センド）」の値が「0」になっているときは、リバーブ効果はかかりません。また、シーンの設定によっては、つまみを回しても効果がかからない場合があります。
詳しくは、「音色の詳細設定をする」（P.23）をご覧ください。

音に広がりをつける（CHORUS/DELAY）

鍵盤で弾く音に「コーラス効果」や「ディレイ効果」をかけることができます。

コーラス効果やディレイ効果をかけると、音に立体的な広がりと厚みを持たせることができます。



1. ［CHORUS/DELAY］つまみを回します。

コーラス／ディレイ効果のかかり具合が変わります。

コーラス／ディレイのかかり具合は、0 ～ 127 の範囲で設定できます。

メモ

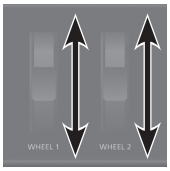
MENU 画面、「SYSTEM EFFECTS」の「Sys Chorus」ページで、コーラス／ディレイの種類を選ぶことができます。

注意

［MENU］→［SCENE EDIT］→［ZONE EDIT］の「INTERNAL」のページで、「Cho Send（コーラス・センド）」の値が「0」になっているときは、コーラス／ディレイ効果はかかりません。また、シーンの設定によっては、つまみを回しても効果がかからない場合があります。詳しくは、「音色の詳細設定をする」（P.23）をご覧ください。

音をリアルタイムに変化させる（WHEEL1 ／ 2）

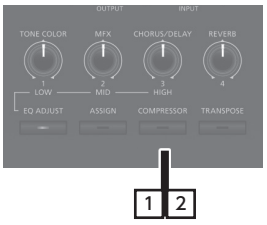
鍵盤を弾きながらホイール 1 ／ 2 を回すと、音がリアルタイムに変化します。デフォルトでは、ホイール 1 はピッチ・ベンド効果（ピッチ変化）、ホイール 2 はモジュレーション効果（ビブラート）がかかります。



ホイール 1 ／ 2 でかける効果は、自由に変更することができます。詳しくは、「操作子ごとに機能を設定する」（P.20）をご覧ください。

音にメリハリをつける（COMPRESSOR）

コンプレッサーをオンにすると、音量のばらつきを抑え、まとまりのある音質になります。



1. ［COMPRESSOR］ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

［COMPRESSOR］ボタンを押すたびに、コンプレッサーのオン／オフが切り替わります。

2. コンプレッサーを解除するときは、もう一度［COMPRESSOR］ボタンを押して、インジケーターを消灯させます。

注意

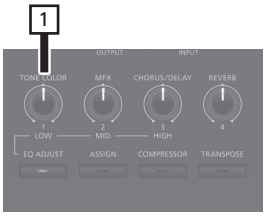
トーンによっては、音がひずむ場合があります。

メモ

- コンプレッサーの設定を自由に変えることができます。詳しくは、「音色の詳細設定をする」（P.23）をご覧ください。
- ［SHIFT］＋［COMPRESSOR］ボタンを押すと、コンプレッサーの設定画面が表示されます。

音のキャラクターを変化させる（トーン・カラー）

［TONE COLOR］つまみを回すと、音色ごとに音質や音像などを変化させることができます。



1. ［TONE COLOR］つまみを回します。

つまみに設定された効果がかかります。

［TONE COLOR］つまみには、以下のどちらかの効果を設定できます。

パラメーター	説明
Stereo Width	ステレオで音を出している場合、つまみを左に回すと出音がモノに、右に回すとステレオに徐々に変化します。演奏状況によっては、モノ音の方が音が聴こえやすい場合があります。
EQ	EQ を 1 つのつまみで調整できます。左に回すと中音域が強調され、右に回していくと高音／低音域が強調されます。演奏状況によって調整すれば、音が聴こえやすくなります。

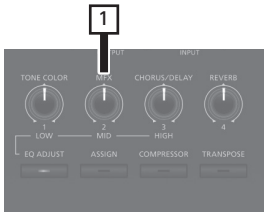
メモ

Tone Color の設定は、［MENU］→［SCENE EDIT］→［ZONE SOUND］の中の TONE COLOR で設定します。設定を保存する場合は、シーンを保存します（P.23）。

音にさまざまな効果をかける（MFX）

RD-88 では、コーラス（P.15）やリバーブ（P.14）のほかに「マルチ・エフェクト」をかけることができます。マルチ・エフェクトは、ディストーションやロータリーをはじめとするエフェクト・タイプから選ぶことができます。

工場出荷時の設定では、各トーンにあったエフェクトが設定されています。



1. ［MFX］つまみを回して、エフェクトの効果を調節します。

選ばれているトーンに設定されているマルチ・エフェクトの効果が変わります。

メモ

現在選ばれているのゾーンの MFX に対して効果がかかります。つまみを回して変化する値は、エフェクトの種類によってあらかじめ設定されています。エフェクトの種類によっては、効果がわかりにくい場合があります。

また、MFX の設定が「Thru」になっているトーンには効果はかかりません。

MFX は、シーン単位でも設定することができます。詳しくは、『パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

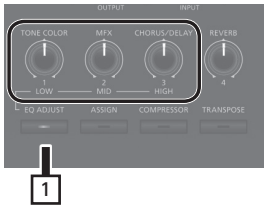
音の各帯域のレベルを調節する（EQUALIZER）

RD-88 には、イコライザーが装備されています。
EQ［LOW］つまみ、[MID］つまみ、[HIGH］つまみの各つまみで、それぞれ音の各帯域のレベルを自由に調節できます。

注意

イコライザーは OUTPUT 端子から出力される音全体に効果がかかります。

1. [EQ ADJUST］ボタンを押します。



インジケーターが点灯し、以下のようにつまみの機能が変わります。

- ［TONE COLOR］つまみ →EQ［LOW］つまみ
- ［MFX］つまみ →EQ［MID］つまみ
- ［CHORUS/DELAY］つまみ →EQ［HIGH］つまみ

2. つまみで、各音域のレベルを調節します。

EQUALIZER［LOW］つまみ、［MID］つまみ、［HIGH］つまみの各つまみを左側に回すと各音域が弱くなり、右側に回すと各音域が強くなります。

メモ

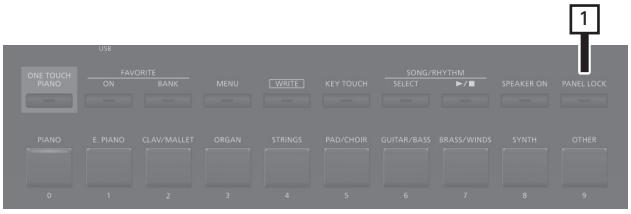
MENU →SYSTEM EFFECTS の中の、Master EQ で EQ の詳細設定ができます。

注意

- つまみの設定によっては、音がひずむことがあります。そのときは、Master EQ 画面で Input Gain を調節してください。
- EQ の設定はシーンを変更しても維持されますが、電源を切ると消えてしまいます。EQ の設定を保存する場合は、「システム・エフェクトを保存（ライト）する」（P.23）をしてください。

ボタンを効かないようにする（パネル・ロック）

パネル・ロックは、ステージなどで誤ってパネルの設定を変えてしまうことがないように、ボタンの操作を一時的にロックすることができます。



1. [PANEL LOCK］ボタンを長押しします。

パネルがロックされ、以下の画面が表示されます。

もう一度［PANEL LOCK］ボタンを長押しすると、パネル・ロックが解除されます。

メモ

つまみとホイールは、パネル・ロック中も操作することができます。

多彩な機能を使って演奏する

よく使う音色（シーン）をボタンに登録する（FAVORITE）

「フェイバリット」は、よく使う音色（シーン）を登録して、ボタン 1 つで呼び出すことのできる機能です。

フェイバリットには、シーンの番号が登録されます。

メモ

- フェイバリット 0 ～ 9 を 1 つのセットとして、計 10 セットをフェイバリット・バンクに登録することができます。
- 音色の呼び出しや登録には、［0］～［9］の 10 個のボタンを使います。

注意

エディット中のシーンは、先にシーンを保存してからフェイバリットに登録してください。

フェイバリットを登録する

1. 登録するシーンを選びます。

2. FAVORITE［BANK］ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

3. ［0］～［9］ボタンを押して、登録先のバンクを選びます。

4. FAVORITE［ON］ボタンを長押しして、［0］～［9］ボタンを点滅させます。

5. FAVORITE［ON］ボタンを押したまま、登録先にしたい［0］～［9］ボタンを 1 つ押します。

現在選んでいるシーンが登録されます。

フェイバリットを呼び出す

1. FAVORITE［ON］ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

［0］～［9］ボタンがフェイバリット選択ボタンになります。

2. ［0］～［9］ボタンを押して、フェイバリットを選びます。

フェイバリットが登録されていないボタンを押すと、画面に「Unregistered!」と表示されます。

フェイバリット・バンクを切り替える

1. FAVORITE［BANK］ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

現在選ばれているバンクに対応するボタン（［0］～［9］）が点滅します。

2. ［0］～［9］ボタンを押して、バンクを選びます。

フェイバリットのリストを表示する

1. ［SHIFT］ボタンを押しながら、FAVORITE［ON］ボタンを押します。

Favorite が ON になり、フェイバリットに登録されたシーンのリストが表示されます。

メモ

カーソル［∧］［∨］ボタンでシーンの切り替え、カーソル［<］［>］ボタンで BANK の切り替えができます。また、［0］～［9］ボタンでもシーンの切り替えができます。

2. ［EXIT］ボタンを押して、元の画面に戻ります。

フェイバリットを削除する

1. ［SHIFT］ボタンを押しながら、FAVORITE［ON］ボタンを押します。

Favorite が ON になり、フェイバリットに登録されたシーンのリストが表示されます。

2. カーソル［∧］［∨］ボタンで、削除したいフェイバリットを選びます。

3. ［SHIFT］ボタンを押しながら、［EXIT］ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

中止するときは、［EXIT］ボタンを押します。

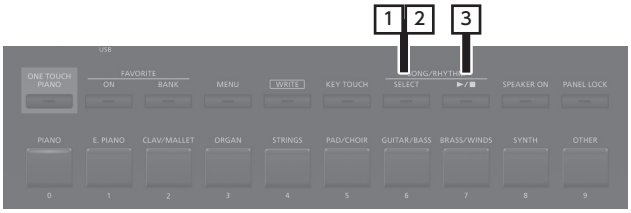
4. 実行するときはカーソル［>］ボタンで「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

削除が完了すると、「Delete」と表示されます。

5. ［EXIT］ボタンを押して、元の画面に戻ります。

リズムを鳴らす

RD-88 には、ジャズやロックなどさまざまな音楽ジャンルのドラム・パターンを内蔵しています。このドラム・パターンのことを「リズム」といいます。

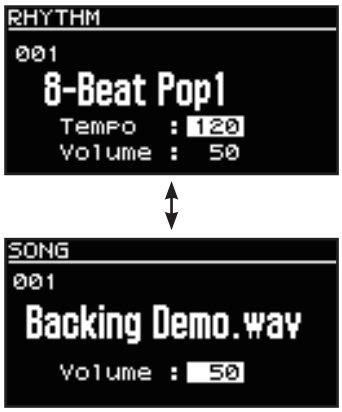


1. [SELECT] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

SONG/RHYTHM 画面が表示されます。

2. SONG 画面が表示された場合は、もう一度 [SELECT] ボタンを押して、RHYTHM 画面に切り替えます。

[SELECT] ボタンを押すたびに、SONG 画面と RHYTHM 画面が切り替わります。



3. [►/■] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

リズムが鳴り始めます。

もう一度 [►/■] ボタンを押して消灯させると、リズムが止まります。

メモ

リズムを鳴らしているときに、[SELECT] ボタンを押して SONG 画面に切り替えても、リズムが止まります。

リズムのテンポを変える

1. RHYTHM 画面でカーソル・ボタンを押して、カーソルをテンポ表示に移動させます。

2. [DEC] [INC] ボタンでテンポを変えます。

設定したテンポでリズムが鳴ります。

リズムのパターンを変える

リズムは、いろいろなジャンルに合わせて演奏のしかた（パターン）を選ぶことができます。

1. RHYTHM 画面でカーソル・ボタンを押して、カーソルを画面のリズム番号に移動させます。

2. [DEC] [INC] ボタンで、パターンを選びます。

リズムのパターンが変わります。

3. リズムを止めるときは、[►/■] ボタンを押して、インジケーターを消灯させます。

曲を再生する

RD-88 では、パソコンで USB メモリーにコピーしたオーディオ・ファイル（MP3、WAV）を再生し、それに合わせて演奏することができます。

1. RD-88 で USB メモリーをフォーマットします

「USBメモリーをフォーマットする(FORMAT USB MEMORY)」(P.27)。

メモ

- 市販の USB メモリーをお使いください。ただし、市販されている USB メモリーすべての動作を保証するものではありません。
- ファイル名は 1 バイト文字（半角英数字）にすることをお勧めします。2 バイト文字（全角文字）を使用すると、LCD ディスプレイにファイル名が正しく表示されません。

2. 「SONG LIST」フォルダーの中に、オーディオ・ファイルをコピーします。

再生可能なオーディオ・ファイル

MP3	
フォーマット	MPEG-1 audio layer 3
サンプリング周波数	48kHz
ビット・レート	32 ／ 40 ／ 48 ／ 56 ／ 64 ／ 80 ／ 96 ／ 112 ／ 128 ／ 160 ／ 192 ／ 224 ／ 256 ／ 320kbps、VBR（Variable Bit Rate）
WAV	
サンプリング周波数	48kHz
ビット数	16 ／ 24 ビット

※ サンプリング周波数は MP3、WAV ともに 48kHz のみです。48kHz 以外のサンプリング周波数のファイルは、パソコン側のソフトを使って、48kHz に変換してから使います。

3. USB メモリーを、RD-88 の USB MEMORY 端子に挿入します。

4. [SELECT] ボタンを押して、インジケーターを点灯させます。

SONG/RHYTHM 画面が表示されます。

5. [SELECT] ボタンを押して、SONG 画面に切り替えます。

[SELECT] ボタンを押すたびに、SONG 画面と RHYTHM 画面が切り替わります。

6. ソング番号にカーソルを合わせ、[DEC] [INC] ボタンで、再生するソングを選びます。

7. 曲を再生するときは、[►/■] ボタンを押してインジケーターを点灯させます。

もう一度 [►/■] ボタンを押して消灯させると、曲の再生が止まります。

メモ

「Volume」にカーソルを合わせ、[DEC] [INC] ボタンで、曲の音量を調整します。

音量の設定を保存するときは、システム・ライト（P.27）の操作をします。

操作子ごとに機能を設定する

つまみ [1]～[8] ／ホイール 1/2 ／ペダル FC1/FC2 は、コントロールするパラメーターを変更することができます。

1. [MENU] ボタンを押します。

2. カーソル [∧] [∨] ボタンで「SYSTEM」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

3. カーソル [∧] [∨] ボタンで「ASSIGN」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

4. カーソル [<] [>] ボタンで、変更したい操作子を選びます。

5. カーソル [∧] [∨] ボタンでパラメーターを選び、[DEC] [INC] ボタンで値を変更します。

パラメーターの詳細は、『パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

6. 設定を保存するときは、システム・ライトの操作をします。

「システム設定を保存する（システム・ライト）」（P.27）

メモ

これらの操作子の設定は、シーンごとに設定して記憶させることもできます。音色（シーン）ごとに、操作子の設定を切り替えたいときに便利です。SCENE EDIT パラメーターの「ASSIGN」の中の各操作子の Source を、System（SYS）から SCENE に設定します。詳しくは、『パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

[ONE TOUCH PIANO] ボタンを使う

[ONE TOUCH PIANO] ボタンを押すと、工場出荷時の状態では、シーン 001 のピアノ音色が呼び出されます。

以下の手順で、[ONE TOUCH PIANO] ボタンに、お気に入りのシーンも設定できます。また、[ONE TOUCH PIANO] ボタンに設定したシーンが、起動時にはじめに選ばれるシーンになります。

1. お好きなシーンを選びます。

2. [WRITE] ボタンを押しながら、[ONE TOUCH PIANO] ボタンを押します。

現在の設定が [ONE TOUCH PIANO ボタン] に保存されます。

RD-88 をマスター・キーボードにする

RD-88 から外部 MIDI 機器をコントロールできます。

通常、RD-88 は、ノート情報を MIDI OUT 端子から送信していますが、外部機器をコントロールする設定をすることで、ノート情報だけでなく、外部 MIDI 機器のさまざまな設定をコントロールすることができます。

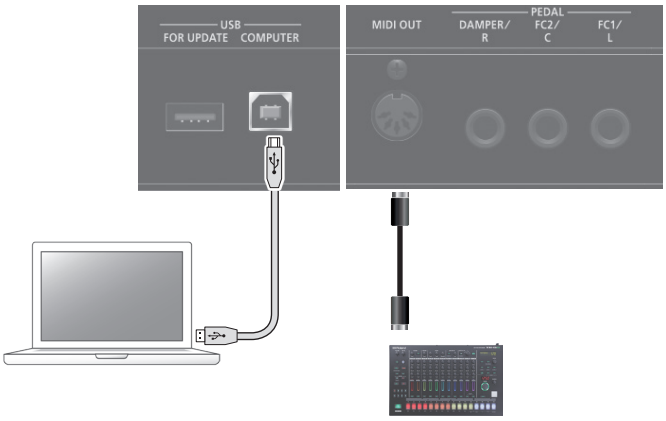
内部音源と外部音源は独立してコントロールすることができます。

MIDI とは

MIDI（Musical Instrument Digital Interface）とは、電子楽器やパソコンの間で演奏などの情報をやりとりできる統一規格です。MIDI 端子を持つ機器同士を MIDI ケーブルで接続すると、1 台の MIDI キーボードで複数の楽器を鳴らす、複数の MIDI 楽器をアンサンブルで演奏する、曲の演奏の進行に合わせて自動的に設定を変える、などができるようになります。

MIDI OUT端子

外部の MIDI 機器に対して MIDI 情報を送信します。RD-88 では、MIDI OUT 端子からコントローラー部の演奏情報を送信するときに使います。



外部 MIDI 機器

外部音源をコントロールする設定をする

シーン内のゾーン（UP1/UP2/LOW）ごとに、外部 MIDI 音源をコントロールするための設定をします。1 台の RD-88 で、本体と外部音源の音を重ねたり、別々にコントロールしたりすることができます。

シーン単位で設定を保存できるので、シーンを切り替えることで即座に内部音源／外部音源のコントロール設定を呼び出すことができます。

1. [EXT CTRL SETTING] ボタンを押します。

外部音源（エクスターナル）をコントロールするセッティング画面が表示されます。

メモ

MENU → SCENE EDIT → ZONE EDIT 画面で、カーソル［>］ボタンを押すと同じ画面が表示されます。

2. 設定を変更したいゾーンを、シーン・カテゴリー・ボタン［0］、［1］、［2］を使って選びます。

ボタンが点滅し、画面右上に選んだゾーンが表示されます。

ボタン	ゾーン
0	UP1
1	UP2
2	LOW

注意

設定変更するゾーンが有効（オン）になっていないと、コントロール情報が出力されません。シーン・カテゴリー・ボタン［3］、［4］、［5］で必要なゾーンを ON にします。

ボタン	ゾーン
3	UP1
4	UP2
5	LOW

3. カーソル［∧］［∨］ボタンで変更したいパラメーターを選び、［DEC］［INC］ボタンで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
TxMode	ON	通常は、この値に設定されています。RD-88 の内部音源と外部 MIDI 機器に、同じ MIDI メッセージを送信します。トーンの選択、切り替え情報（バンクセレクト、プログラム・チェンジ）は、そのゾーンで選ばれているトーンの設定になります。
	INT	特定のゾーンの MIDI メッセージを外部 MIDI 機器に送信したくないときに設定します。RD-88 内部の音だけを鳴らしたいときに INT に設定します。
	EXT	マスター・キーボードとして、外部 MIDI 機器をコントロールするときに設定します。
Ext Port	ALL、MIDI、USB	コントール信号を送信する端子を決めます。「ALL」の場合は MIDI OUT 端子、USB 端子の両方から信号が送信されます。
Ext Ch	1 ～ 16	送信する MIDI Ch を決めます。
Ext MSB	OFF、0 ～ 127	プログラム・ナンバーやバンク・セレクト MSB ／ LSB を数値で入力して、外部 MIDI 機器の音色を切り替えます。
Ext LSB		
Ext PC	OFF、1 ～ 128	

メモ

その他のパラメーターや、パラメーターの詳細については、『パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

4. 設定を保存するときは、シーン・ライトを実行します。

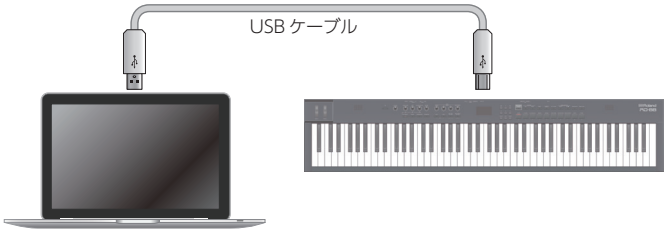
マスター・キーボードの設定は、シーンごとに保存します。

➡「シーンを保存（ライト）する」（P.23）。

パソコンと接続する（USB COMPUTER 端子）

RD-88 の USB COMPUTER 端子を経由して、MIDI やオーディオをパソコンとやりとりすることができます。

※ 動作条件や対応 OS については、ローランドのホームページをご覧ください。



専用ドライバーのインストール

RD-88 をパソコンに接続して使用する場合は、パソコンにドライバーをインストールする必要があります。

1. 製品サポート・ページからRD-88 Driverをダウンロードします。

最新の USB ドライバーは、以下の URL にアクセスし、お使いの機種にあったドライバーをダウンロードします。

https://www.roland.com/jp/support/

2. ダウンロード・ページに書かれている手順に従って、ドライバーをインストールします。

USB ドライバーを設定する

USB COMPUTER 端子を使ってパソコンと接続するときに使用する USB ドライバーを設定します。

※ USB ドライバーの設定変更は、本体を再起動すると有効になります。

1. ［MENU］ボタンを押します。

2. カーソル［∧］［∨］ボタンで「SYSTEM」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

3. カーソル［∧］［∨］ボタンで「GENERAL」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

4. カーソル［∧］［∨］ボタンで「USB Driver」を選び、［DEC］［INC］ボタンで値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
USB Driver	GENERIC	パソコンに標準添付の USB ドライバーをお使いのときに選びます。 * MIDI のみ使えます。
	VENDOR	ローランドのホームページからダウンロードした USB ドライバーをお使いのときに選びます。

5. 設定を保存します。

➡「システム設定を保存する（システム・ライト）」（P.27）

6. RD-88 の電源を入れ直します。

音色の詳細設定をする

RD-88 には、音に関する詳細設定（エディット）が 2 種類あります。

シーン・エディット

シーンに関するパラメーターを変更します。各ゾーンのオン／オフやレベル調整、シーンごとのエフェクトの設定などがあります。

システム・エフェクト・エディット

出音全体にかかるエフェクト（システム・エフェクト）の設定を変更します。

システム・エフェクトには、コーラス／ディレイ、リバーブ、EQ、コンプレッサーがあります。

注意

- エディットした設定は、保存（ライト）しないと消えてしまいます。設定を残しておきたいときは、以下の手順に従って保存してください。
- エディット中のシーンは、シーン番号の横にエディット・マーク（*）が付きます。

シーンをエディットする

1. ［MENU］ボタンを押します。

2. カーソル［∧］［∨］ボタンで「SCENE EDIT」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

3. カーソル［∧］［∨］ボタンで、エディットしたい項目を選び、［ENTER］ボタンを押します。

4. カーソル［∧］［∨］ボタンでパラメーターを選び、［DEC］［INC］ボタンで値を変更します。

詳しくは、『パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

メモ

項目の中に複数ページが存在する場合は、画面右上に「◀」「▶」マークが出ます。カーソル［<］［>］ボタンでページを移動します。

シーンを保存（ライト）する

5. 変更を保存するときは、［WRITE］ボタンを押します。

メモ

シーンをエディットした場合は、「SCENE」の横に「*」マークが付いています。

6. カーソル［∧］［∨］ボタンで「SCENE」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

保存先のシーンを選択する画面が表示されます。

7. カーソル［∧］［∨］ボタンで保存先のシーンを選び、［ENTER］ボタンを押します。

シーン名入力画面が表示されます。

8. カーソル［<］［>］ボタンでカーソルを移動し、［DEC］［INC］ボタンで文字を変更します。

9. 名前の設定が終わったら、［ENTER］ボタンを押します。

SCENE WRITE の確認画面が表示されます。

注意

保存すると保存先に選ばれたシーンは上書きされ、以前のデータは消去されます。

10. 実行するときは、カーソル［>］ボタンで「WRITE」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

中止するときは、［EXIT］ボタンを押します。

注意

エディット中のシーンは電源を切ったり、他のシーンを選んだりすると設定変更は取り消されます。設定を残しておきたいときは、シーンを保存してください。

システム・エフェクトをエディットする

1. ［MENU］ボタンを押します。

2. カーソル［∧］［∨］ボタンで、「SYSTEM EFFECTS」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

3. カーソル［<］［>］ボタンでエディットするエフェクトを選び、カーソル［∧］［∨］ボタンでパラメーターを選び、［DEC］［INC］ボタンで値を変更します。

詳しくは、『パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

システム・エフェクトを保存（ライト）する

4. 変更を保存するときは、［WRITE］ボタンを押します。

メモ

システム・エフェクトをエディットした場合は、「SYSTEM」の横に「*」マークが付いています。

5. カーソル［∧］［∨］ボタンで「SYSTEM」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

SYSTEM WRITE の確認画面が表示されます。

6. 実行するときは、カーソル［>］ボタンで「WRITE」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

中止するときは、［EXIT］ボタンを押します。

その他の機能

便利な機能（UTILITY）

RD-88 のデータを USB メモリーにバックアップしたり、USB メモリーのデータを RD-88 に復元したりすることができます。また、RD-88 を工場出荷時の設定に戻したり、USB メモリーをフォーマットしたりすることもできます。

UTILITY	説明
BACKUP	ユーザー・データを USB メモリーにバックアップします。
RESTORE	USB メモリーにバックアップしたデータを本体に戻します。
IMPORT TONE	USB メモリーに保存した音色を本体に追加します。
FACTORY RESET	本体の設定を、工場出荷時の状態に戻します。
FORMAT USB MEMORY	USB メモリーを初期化します。

データを USB メモリーにバックアップする（BACKUP）

ユーザー・データを USB メモリーにバックアップします。

バックアップされるデータ

- シーンの全データ
- フェイバリット
- システム設定（システム・エフェクト含む）

注意

画面に「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーを抜いたりしないでください。

1. ［MENU］ボタンを押します。

2. カーソル［∧］［∨］ボタンで「UTILITY」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

3. カーソル［∧］［∨］ボタンで「BACKUP」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

BACKUP NAME 画面が表示されます。

4. カーソル［<］［>］ボタンでカーソルを移動し、［DEC］［INC］ボタンで文字を変更します。

5. ファイル名が決まったら、［ENTER］ボタンを押します。

確認画面が表示されます。
中止するときは、［EXIT］ボタンを押します。

6. 実行するときは、［ENTER］ボタンを押します。

バックアップが完了すると、「Completed!」と表示されます。
同じ名前のファイルがあるときは、上書きしても良いかを確認する画面（Overwrite?）が表示されます。

バックアップしたデータを復元する（RESTORE）

USBメモリーにバックアップしたユーザー・データ、本体に戻します。これを「リストア」と呼びます。

注意

- リストアを実行すると、すべてのユーザー・データは書き替えられます。本体に大切なデータが保存されているときは、リストアをする前に、別の名前を付けて USB メモリーにバックアップしてください。
- 画面に「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーを抜いたりしないでください。

1. ［MENU］ボタンを押します。

2. カーソル［∧］［∨］ボタンで「UTILITY」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

3. カーソル［∧］［∨］ボタンで「RESTORE」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

4. カーソル［∧］［∨］ボタンで、リストアするファイルを選びます。

5. ［ENTER］ボタンを押します。

確認画面が表示されます。
中止するときは、［EXIT］ボタンを押します。

6. 実行するときは、［ENTER］ボタンを押します。

リストアが完了すると、「Completed. Turn off power.」と表示されます。

7. RD-88 の電源を入れ直します。

音色を追加する（IMPORT TONE）

他機種でエクスポートしたトーンを、追加音色として RD-88 にインポートすることができます。

※ ここでは、ユーザー・トーンのインポート方法について説明しています。SOUND PACK や WAVE EXPANSION をインポート／インストールしたい場合は、『SOUND PACK ／ WAVE EXPANSION インストールマニュアル』(PDF) をご覧ください。

USB メモリーにトーンを保存する

※ USB メモリーを初めて使うときは、RD-88 でフォーマットしてください。
➡「USB メモリーをフォーマットする（FORMAT USB MEMORY）」（P.27）

1. ダウンロード、または他機種のエクスポート機能を使って、インポートしたいトーンの SVZ ファイルを、パソコンに用意します。

2. USB メモリーをパソコンに接続します。

3. USB メモリーの ROLAND/SOUND フォルダーに SVZ ファイルを保存します。

4. USB メモリーをパソコンから取りはずして、RD-88 に接続します。

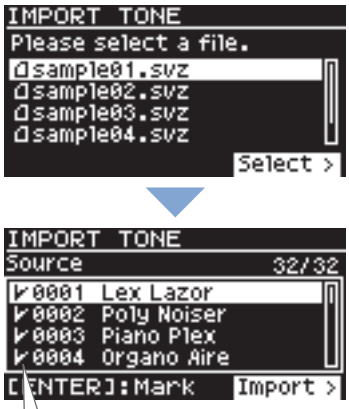
トーンをインポートする

1. ［MENU］ボタンを押します。

2. カーソル［∧］［∨］ボタンで「UTILITY」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

3. カーソル［∧］［∨］ボタンで「IMPORT TONE」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

4. カーソル［∧］［∨］ボタンでインポートしたいトーンが入っているファイルを選び、カーソル［>］ボタンを押します。



インポートできるトーン数に応じて、インポートされるトーンが自動的に選ばれた状態になります（自動的にチェック・マークが付きます）。

5. カーソル［∧］［∨］ボタンでインポートしたいトーンを選び、［ENTER］ボタンでチェック・マークを付けます。

［ENTER］ボタンの代わりに、［INC］［DEC］ボタンでチェック・マークを付けることもできます。

すべてのトーンを選択／選択解除したい場合は、［SHIFT］ボタンを押しながら［INC］［DEC］ボタンを押します。

範囲を指定してトーンを選択／選択解除したい場合は、範囲の先頭で［ENTER］ボタンを押したあと、範囲の最後尾で［SHIFT］ボタンを押しながら［ENTER］ボタンを押します。

注意

Drum kit のトーンをインポートすることはできません。

6. カーソル［>］ボタンを押します。

7. カーソル［∧］［∨］ボタンでインポート先のトーンを選び、［ENTER］ボタンを押してチェック・マークを付けます。

注意

- インポート先に選んだトーンは、上書き保存されます。
- 新しくインポートしたトーンには、「NEW」が表示されます。
- シーンで使われているトーンには、「*」が表示されます。
- インポート元よりインポート先のトーン数が少ないと、選んだトーンがすべてインポートされません。
  トーン数は、画面右上で確認することができます。

- 「INITIAL TONE」という名前のトーンがある場合は、インポート先のトーンとして自動的に選ばれます。
  ※ エディットしたトーンであっても、トーン名が「INITIAL TONE」になっていると、インポート先のトーンに選ばれます。トーンを残しておきたいときは、チェック・マークをはずしてください。

8. カーソル［>］ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

中止するときは、［EXIT］ボタンを押します。

9. 実行するときはカーソル［>］ボタンで「OK」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

インポートが完了すると、「Import Tone Completed!」と表示されます。

注意

「Processing…」などと表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーを抜いたりしないでください。

インポートしたトーンを選ぶ

1. シーン画面でカーソル・ボタンを押して、トーンを変えたいゾーンを選びます。

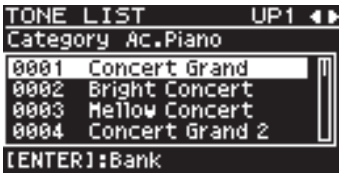
トーン名にカーソルを合わせます。

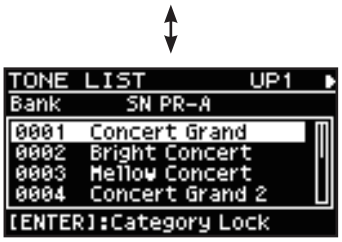
2. [ENTER] ボタンを押します。

トーンのリストが表示されます。

3. [ENTER] ボタンを押して、Bank 画面を表示させます。

[ENTER] ボタンを押すたびに、カテゴリーごとにソートする Category 画面と、バンクごとにソートする Bank 画面が切り替わります。





4. カーソル [<] [>] ボタンで、USER バンクを選びます。

インポートしたトーンのリストが表示されます。

5. カーソル [∧] [∨] ボタンで、トーンを選びます。

メモ

- トーンを選んだあと、[EXIT] ボタンを押すと、シーン画面に戻ります。
- 設定を保存するときは、シーン・ライトを実行します。

➡「シーンを保存（ライト）する」(P.23)

工場出荷時の設定に戻す (FACTORY RESET)

RD-88 で変更し保存した設定を、工場出荷時の設定に戻すことができます。

※ この操作を実行すると、音色パラメーターを含め、お買い上げいただいた後に変更した設定内容はすべて失われます。

※ 現在の設定があとで必要なときは、工場出荷時の状態に戻す前に、必ずバックアップ機能（P.24）を使用して現在の設定を保存しておいてください。

1. [MENU] ボタンを押します。

2. カーソル [∧] [∨] ボタンで「UTILITY」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

3. カーソル [∧] [∨] ボタンで「FACTORY RESET」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

SOUND PACK や WAVE EXPANSION をインポート／インストールしている場合

項目選択画面が表示されます。

4. カーソル [∧] [∨] ボタンで実行したい項目を選び、[ENTER] ボタンを押してチェック・ボックスにチェックを入れます。

もう一度 [ENTER] ボタンを押すとチェックが外れます。

項目	説明
Reset User Data	ユーザー・ライセンスと WAVE EXPANSION を除いた設定やデータを初期化します。 ※ この操作を実行すると、お買い上げいただいた後に変更した設定内容は音色パラメーターを含めてすべて消去されます。 ※ 現在の設定を保存したいときは、工場出荷時の状態に戻す前に必ずバックアップ機能（P.24）を使用して現在の設定を保存しておいてください。
Remove License	ユーザー・ライセンスと WAVE EXPANSION を初期化します。 ユーザー・ライセンスを初期化すると、現在と異なるユーザー・ライセンスでダウンロードした SOUND PACK や WAVE EXPANSION をインポート／インストールすることができます。 ※ この操作を実行すると、インストールした WAVE EXPANSION は削除されます。 ※ この操作で、EXZ001 は削除されません。

※ ユーザー・ライセンスについて詳しくは、『SOUND PACK ／ WAVE EXPANSION インストールマニュアル』（PDF）をご覧ください。

5. カーソル [>] ボタンを押します。

確認画面が表示されます。

中止するときは、[EXIT] ボタンを押します。

6. 実行するときは、カーソル [>] ボタンで「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

7. 画面に「**Completed.**」と表示されたら、RD-88 の電源を入れ直します。

SOUND PACK や WAVE EXPANSION をインポート／インストールしていない場合

確認画面が表示されます。
中止するときは、［EXIT］ボタンを押します。

4. 実行するときは、カーソル［>］ボタンで「**OK**」を選び、［**ENTER**］ボタンを押します。
中止するときは、［EXIT］ボタンを押します。

5. 画面に「**Completed.**」と表示されたら、RD-88 の電源を入れ直します。

USB メモリーをフォーマットする（FORMAT USB MEMORY）

注意

- 大切なデータが USB メモリーに保存されているとき、この操作をするとデータがすべて失われてしまいますのでご注意ください。
- 画面に「Executing...」と表示されている間は、絶対に電源を切ったり、USB メモリーを抜いたりしないでください。

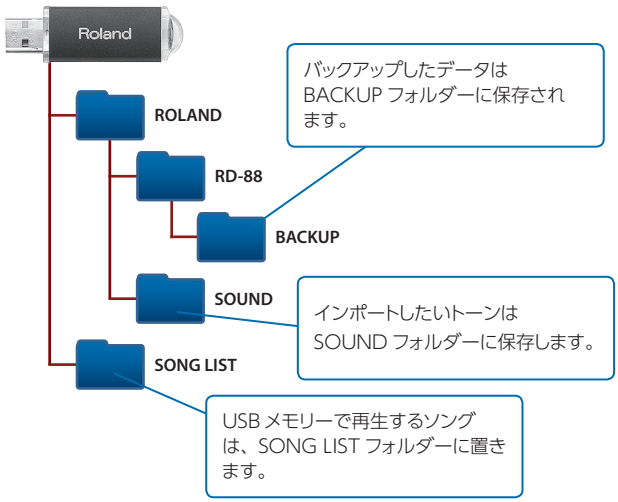
1. ［**MENU**］ボタンを押します。

2. カーソル［∧］［∨］ボタンで「**UTILITY**」を選び、［**ENTER**］ボタンを押します。

3. カーソル［∧］［∨］ボタンで「**FORMAT USB MEMORY**」を選び、［**ENTER**］ボタンを押します。
確認画面が表示されます。
中止するときは、［EXIT］ボタンを押します。

4. 実行するときはカーソル［>］ボタンで「**OK**」を選び、［**ENTER**］ボタンを押します。
フォーマットが完了すると、「Completed!」と表示されます。

USB メモリーのフォルダー構成



システム設定をする（SYSTEM）

システム・パラメーターの設定をします。

1. ［**MENU**］ボタンを押します。

2. カーソル［∧］［∨］ボタンで「**SYSTEM**」を選び、［**ENTER**］ボタンを押します。

3. カーソル［∧］［∨］ボタンでエディットしたい項目を選び、［**ENTER**］ボタンを押します。

4. カーソル［∧］［∨］ボタンで変更したいパラメーターを選び、［**DEC**］［**INC**］ボタンで値を変更します。
詳しくは、『パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

システム設定を保存する（システム・ライト）

5. 変更を保存するときは、［**WRITE**］ボタンを押します。

メモ

システムをエディットした場合は、「SYSTEM」の横に「*」マークが付いています。

6. カーソル［∧］［∨］ボタンで「**SYSTEM**」を選び、［**ENTER**］ボタンを押します。
SYSTEM WRITE の確認画面が表示されます。

7. 実行するときは、カーソル［>］ボタンで「**WRITE**」を選び、［**ENTER**］ボタンを押します。
中止するときは、［EXIT］ボタンを押します。

プログラムのバージョンを表示する（INFORMATION）

RD-88 のシステム・プログラムのバージョンを表示します。

1. ［**MENU**］ボタンを押します。

2. カーソル［∧］［∨］ボタンで「**INFORMATION**」を選び、［**ENTER**］ボタンを押します。

安全上のご注意

⚠ 警告

Auto Off 機能について

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます（Auto Off 機能）。自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください（P.3）。

指定のスタンドを使用する

本機の設置には、ローランドが推奨するスタンド（KS-12、KS-10Z）を使用してください（P.3）。

不安定な場所に設置しない

本機の設置にスタンド（KS-12、KS-10Z）を使用する場合、ぐらつくような場所や傾いた場所に設置せず、安定した水平な場所に設置してください。機器を単独で設置する場合も、同様に安定した水平な場所に設置してください。

⚠ 警告

スタンドへ設置するときの注意

取扱説明書の指示どおりに設置してください（P.3）。

正しく設置しないと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。

付属の AC アダプターを AC100V で使用する

AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。

付属の電源コードを使用する

電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。

⚠ 注意

指定のスタンドのみ使用する

本機は当社製のスタンド（KS-12、KS-10Z）とのみ、組み合わせて使用できるよう設計されています。他のスタンドと組み合わせて使うと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。

スタンドを使う前に安全を確認する

取扱説明書に記載の注意事項が守られていても、取り扱いによってはスタンドから本機が落下したりスタンドが転倒したりする可能性があります。使用にあたっては事前に安全を確認した上でお使いください。

使用上のご注意

電源について

- AC アダプターは、文字が表示された面が下になるように設置してください。

設置について

- 鍵盤やペダル鍵盤の上にものを置いたままにしないでください。発音しなくなるなど、故障の原因になります。
- 設置条件（設置面の材質、温度など）によっては、本機のゴム足が設置した台などの表面を変色または変質させることがあります。

鍵盤の取り扱いについて

- ペンなどで書き込みをしたり、印を付けたりしないでください。インクが表面のラインに染み込んで落ちなくなります。
- シールなどを貼ったりしないでください。粘着力の強いものでは、シールがはがれなくなったり、粘着剤によって変色したりすることがあります。
- ひどい汚れを落とすときは、研磨剤が入っていない市販の鍵盤クリーナーを使ってください。はじめは軽く拭くようにします。汚れが落ちないときは、傷がつかないように徐々に力を入れながら拭くようにしてください。

修理について

- 修理を依頼されるときは、事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記憶内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- 当社では、本機の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとでも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はバックアップしておいてください。
- 失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- ディスプレイを強く押したり、叩いたりしないでください。
- 演奏時の打鍵音や振動は床や壁を通じて意外によく伝わります。周囲に迷惑がかからないように注意しましょう。
- エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のものをお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。
- 抵抗入りの接続ケーブルは使用しないでください。

外部メモリーの取り扱い

- 外部メモリーを使うときは次の点に注意してください。また、外部メモリーに付属の注意事項を守ってお使いください。
  - 読み込み中や書き込み中には取りはずさない。
  - 静電気による破損を防ぐため、取り扱う前に身体に帯電している静電気を放電しておく。

知的財産権について

- Roland は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- 文中記載の会社名および製品名などは、各社の登録商標または商標です。
- 第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、実演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- 第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ（音色波形データ、スタイル・データ、伴奏パターン、フレーズ・データ、オーディオ・ループ、画像データなど）の著作権は当社が保有しています。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ（ただしデモ曲などの楽曲データは除く）を素材として、お客様が新たな作品を制作、演奏、録音、配布をすることに関しては、当社の許諾を必要としません。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、別の記録媒体に固定して配布したり、コンピューター・ネットワークを通じて公開したりすることはできません。
- 本製品には、イーソル株式会社のソフトウェアプラットフォーム「eParts™」が搭載されています。
- 本製品は、T-Engine フォーラム（www.tron.org）の T-License 2.0 に基づきμ T-Kernel ソースコードを利用しています。

主な仕様

ローランド RD-88：デジタル・ピアノ

鍵盤	88 鍵（PHA-4 スタンダード鍵盤:エスケープメント付き、象牙調）
電源	AC アダプター
消費電流	1,500mA
外形寸法	1,284（幅）× 258（奥行）× 159（高さ）mm
質量	13.5kg
付属品	取扱説明書、「安全上のご注意」チラシ、AC アダプター、電源コード（AC アダプター接続用）、ペダル・スイッチ、保証書、 ローランド ユーザー登録カード
別売品	スタンド（KS-12、KS-10Z）、ペダル（DP-2、DP-10、EV-5、RPU-3）、 キャリング・ケース：CB-88RL、CB-76RL ヘッドホン、USB メモリー

※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

お問い合わせの窓口

ホームページからのお問い合わせ

Q&A、チャットサポート、メールでお問い合わせ

Roland製品
http://roland.cm/roland_support

BOSS製品
http://roland.cm/boss_support

電話でのお問い合わせ

ローランドお客様相談センター
050-3000-9230
電話受付時間： 月曜日～金曜日　10:00～17:00
（祝日および弊社規定の休日を除く）

'20. 04. 01 現在

ローランド株式会社
〒431-1304 静岡県浜松市北区細江町中川 2036-1

ローランド株式会社
〒431-1304 静岡県浜松市北区細江町中川 2036-1